

## 文化・芸術

### 「自画像」

1915年、インク・紙  
28・1寸×18・3寸（個人蔵）

### 木村荘八（1893～1958年）

木村荘八は、曾宮一念と同年に生まれ、同じく東京日本橋の生まれでした。この2人の画家は交流があったわけではありません。曾宮が、国内外各地の景観に魅せられた風景画家であったのに対して、木村は、美術にとどまることなく、翻訳、随筆、新聞小説の挿絵などにわたり、江戸への懐旧と変貌（へんぼう）する東京の地にあって市井の暮らしを描き続けました。

前年度、木村の素描作品51点が寄託されたので、青年期に参加していた「草土社」時代の作品を中心に紹介します。あわせて、木村と青年期に交友した岸田劉生、横堀角次郎、萬鉄五郎、中川一政の作品も展示します。

大川美術館「小さな特集展示」から  
生誕130年 木村荘八

### 《名画の扉》

